

真宗
在家勤行集

平かな

特109

299

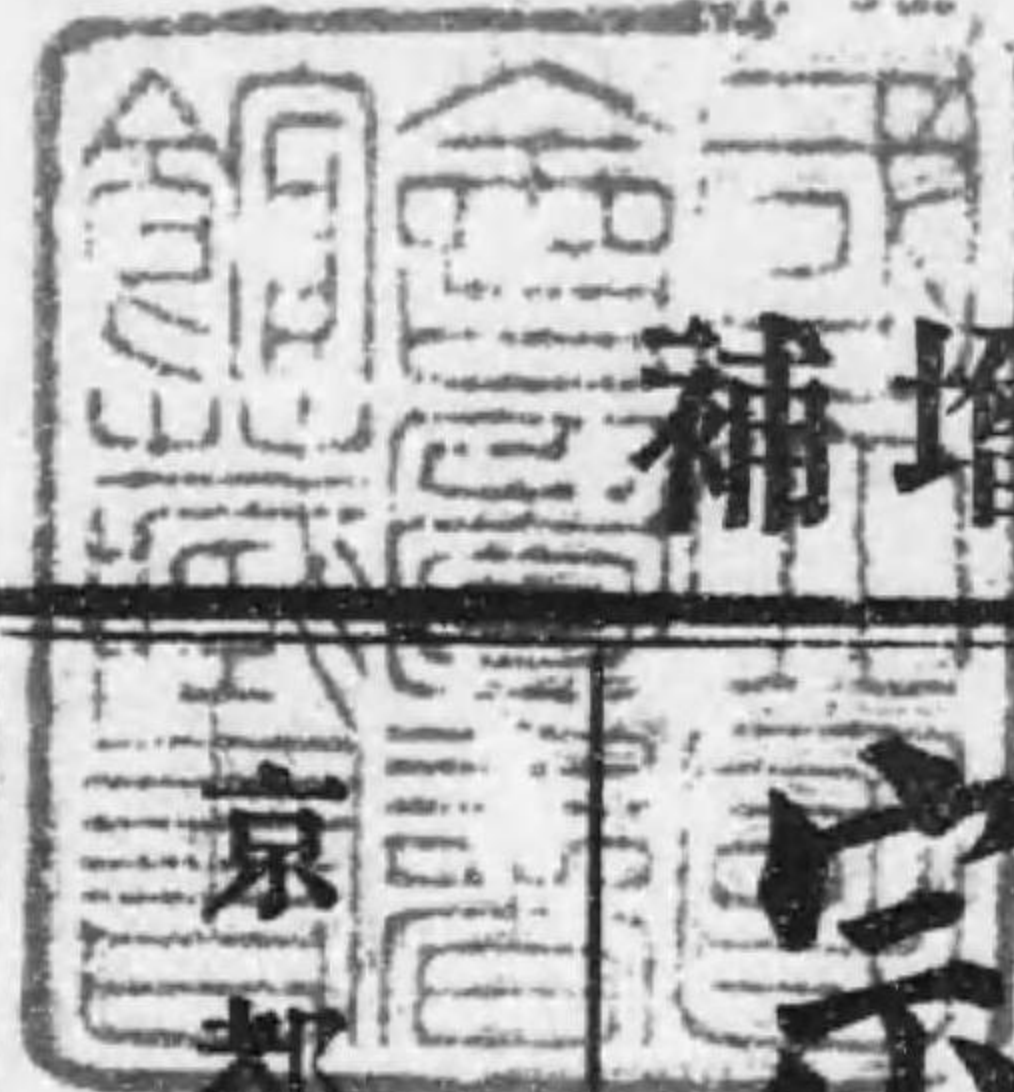


始



特109
299

在 <small>ざい</small>	法 <small>ほふ</small>	南 <small>な</small>	歸 <small>くわ</small>
世 <small>せ</small>	藏 <small>ざう</small>	無 <small>も</small>	命 <small>みやう</small>
自 <small>じ</small>	菩 <small>ぼ</small>	不 <small>ふ</small>	無 <small>む</small>
在 <small>ざい</small>	薩 <small>さち</small>	可 <small>か</small>	量 <small>りやう</small>
王 <small>わう</small>	因 <small>いん</small>	思 <small>し</small>	壽 <small>じゆ</small>
佛 <small>ぶち</small>	位 <small>ゐ</small>	議 <small>ぎ</small>	如 <small>によ</small>
所 <small>しよ</small>	時 <small>じ</small>	光 <small>くわう</small>	來 <small>らい</small>



訂正増補

眞宗 在家勤行集

正信偈 念佛和讃 御文章 改悔文
 文類偈 十四行偈 嘆佛偈 三誓偈

阿彌陀經

京都書肆

風祥堂發行

51.10. 8
1086089

觀と見けん諸しよ佛ぶち淨じやう土と因いん

國こく土ど人にん天てん之し善ぜん惡あく

建こん立りふ無む上じやう殊しゆ勝しやう願ぐわん

超てう發ほち希け有う大だい弘く誓ぜい

五ご劫こふ思し惟ゆい之し攝せふ受じゆ

重ちゆう誓せい名みやう聲しやう聞もん十じふ方はふ

普ふ放ほう無む量りやう無む邊へん光くわう

無む礙げ無む對たい光くわう炎ゑん王わう

清しやう淨じやう歡くわん喜き智ち慧ゑ光くわう

不ふ斷だん難なん思し無む稱しやう光くわう

超てう日にち月ぐわち光くわう照せう塵ちん刹せち

一いち切さい群ぐん生じやう蒙む光くわう照せう

本ほん願ぐわん名みやう號がう正しやう定ぢやう業ごふ

至し心しむ信しむ樂げう願ぐわん爲ゐ因いん

成じやう等とう覺かく證しやう大だい涅ねち槃はん

必ひち至し滅めち度ど願ぐわん成じやう就じゆ

如に來ら所し以い興こ出し世せ

唯ゆい說せち彌み陀だ本ほん願ぐわん海かい

五ご濁ちよく惡あく時じ群ぐん生じやう海かい

應おう信しん如に來ら如に實じち言ごん

能のう發ほち一いち念ねむ喜き愛あい心しむ

不ふ斷だん煩ぼむ惱なう得とく涅ねち槃はん

凡ぼむ聖しやう逆ぎやく謗はう齊さい廻ゑ入にふ

如に衆しゆ水しる入にふ海かい一いち味み

攝せふ取しふ心しむ光くわう常じやう照せう護ご

已い能のう雖すい破は無む明みやう闇あむ

貪とむ愛あい瞋しん憎ぞう之し雲うん霧む

常じやう覆ふ真しん實じち信しん心じむ天てん

譬ひ如によ日にち光くわう覆ふ雲うん霧む

雲うん霧む之し下げ明みやう無む闇あむ

獲ぎやく信しん見けん敬きやう大だい慶きやう喜き

即そく横わう超てう截せち五ご惡あく趣しゆ

一いち切さい善ぜん惡あく凡ぼむ夫ふ人にん

聞もん信しん如によ來らい弘く誓ぜい願ぐわん

佛ぶち言ごん廣くわう大たい勝しょう解げ者しゃ

是ぜ人にん名みやう分ぶん陀だ利り華くわ

彌み陀だ佛ぶち本ほん願ぐわん念ねむ佛ぶち

邪じゃ見けん憍きやう慢まん惡あく衆しゆ生じやう

信しん樂げう受じゆ持じ甚じん以い難なん

難なん中ちゆう之し難なん無む過くわ斯し

印いん度ど西さい天てん之し論ろん家げ

中ちゆう夏か日じち域いき之し高かう僧そう

顯けん大だい聖しやう興こう世せ正しやう意い

明みやう如によ來らい本ほん誓ぜい應おう機き

釋しや迦か如によ來らい楞りよう伽が山せん

爲ゐ衆しゆ告かう命みやう南なむ天てん竺ちく

龍りゆう樹じゆ大だい士じ出しゆち於お世せ

悉しち能のう摧さい破は有う無む見けん

宣せん 說ぜち 大だい 乘じよう 無む 上じやう 法ほふ

證しやう 歡くわん 喜き 地ち 生しやう 安あん 樂らく

顯けん 示じ 難なん 行ぎやう 陸ろく 路ろ 苦く

信しん 樂げう 易ゐ 行ぎやう 水しゐ 道だう 樂らく

憶おく 念ねむ 彌み 陀だ 佛ぶち 本ほん 願ぐわん

自じ 然ねん 即そく 時じ 入にふ 必ひち 定ちやう

唯ゆい 能のう 常じやう 稱しやう 如によ 來らい 號がう

應おう 報ほう 大だい 悲ひ 弘く 誓ぜい 恩おん

天てん親じん菩ぼ薩さち造ざう論ろん說せち

歸くゐ命みやう無む礙げ光くわう如によ來らい

依ゑ修しゆ多た羅ら顯けん真しん實じち

光くわう闡せん橫わう超てう大だい誓せい願ぐわん

廣くわう由ゆ本ほん願ぐわん力りき廻ゑ向かう

爲ゐ度ど羣ぐん生じやう彰しやう一いち心しん

歸くゐ入にふ功く德とく大だい寶ほう海かい

必ひち獲ぎやく入にふ大だい會ゑ衆しゆ數しゆ

得とく 至し 蓮れん 華くゑ 藏ざう 世せ 界かい

即そく 證しょう 真しん 如によ 法ほふ 性しやう 身しん

遊ゆ 煩ぼん 惱なう 林りん 現げん 神じん 通づう

入にふ 生しやう 死じ 園おん 示じ 應おう 化くゑ

本ほん 師し 曇とむ 鸞らん 梁りやう 天てん 子し

常じやう 向かう 鸞らん 處しよ 菩ぼ 薩さち 禮らい

三さむ 藏ざう 流る 支し 授じゆ 淨じやう 教けう

焚ほむ 燒せう 仙せん 經ぎやう 歸くゑ 樂らく 邦ほう

天てん親じん菩ぼ薩さち論ろん註ちう解げ

報ほう土ど因いん果くわ顯けん誓せい願ぐわん

往わう還くゑん廻ゑん向かう由ゆ他た力りき

正しやう定ぢやう之し因いん唯ゆい信しん心じん

惑わく染ぜん凡ぼむ夫ふ信しん心じん發ほち

證しやう知ち生しやう死じ即そく涅ねち槃はん

必ひち至し無む量りやう光くわう明みやう土ど

諸しよ有う衆しゆ生じやう皆かい普ふ化くゑん

道だう 綽しやく 決くゑち 聖しやう 道だう 難なん 證しやう

唯ゆゑ 明みやう 淨じやう 土ど 可か 通つう 入にふ

萬まん 善ぜん 自じ 力りき 貶へん 勤ごん 修しゆ

圓ゑん 滿まん 德とく 號がう 勸くわん 專せん 稱しやう

三さん 不ふ 三さん 信しん 誨くゑ 慳おむ 慚ごむ

像ざう 末まち 法ほふ 滅めち 同どう 悲ひ 引いん

一いち 生しやう 造ざう 惡あく 值ち 弘く 誓ぜい

至し 安あん 養やう 界かい 證しやう 妙めう 果くわ

善ぜん導だう獨どく明みやう佛ぶつ正しやう意い

矜こう哀あい定ぢやう散さん與よ逆ぎやく惡あく

光くわう明みやう名みやう號がう顯けん因いん緣ゑん

開かい入にふ本ほん願ぐわん大だい智ち海かい

行ぎやう者じや正しやう受じゆ金こん剛がう心しむ

慶きやう喜き一いち念ねむ相さう應おう後ご

與よ韋ゐ提だい等とう獲ぎやく三さん忍にん

卽そく證しやう法ほふ性しやう之し常じやう樂らく

源くゑん 信しん 廣くわう 開かい 一いち 代だい 教けう

偏へん 歸くゐ 安あん 養やう 勸くわん 一いち 切さい

專せん 雜ざふ 執しふ 心しむ 判はん 淺せん 深じむ

報ほう 化くゑ 二に 士ど 正しやう 辨べん 立りふ

極ごく 重ちう 惡あく 人にん 唯ゆゐ 稱しやう 佛ぶつ

我が 亦やく 在ざい 彼ひ 攝せつ 取しゆ 中ちう

煩ぼむ 惱なう 障しやう 眼げん 雖すゐ 不ふ 見けん

大だい 悲ひ 無む 倦けん 常じやう 照せう 我が

本ほん師し源げん空く明みやう佛ぶつ教けう

憐れん愍みん善ぜん惡あく凡ほん夫ぶ人にん

真しん宗しう教けう證しよう興こう片へん州しう

選せん擇ちやく本ほん願ぐわん弘く惡あく世せ

還げん來らい生しやう死じ輪りん轉てん家げ

決くゑち以い疑ぎ情じやう為ゐ所しよ止し

速そく入にふ寂じやく靜じやう無む為ゐ樂らく

必ひち以い信しん心じん為ゐ能のう入にふ

弘く經ぎやう大だい士じ宗しゆ師し等とう

拯じやう濟さい無む邊へん極ごく濁ちよく惡あく

道だう俗ぞく時じ衆しゆ共く同どう心しん

唯ゆい可か信しん斯し高かう僧そう說せち

初重

南な无に阿あ彌み陀た佛ぶつ

南な无に阿あ彌み陀た佛ぶつ

南な无に阿あ彌み陀た佛ぶつ

南な无に阿あ彌み陀た佛ぶつ

南ニ无一阿ニ彌一陀ニ佛引

南ニ无一阿ニ彌一陀ニ佛引

彌み陀だ成じやう佛ぶちのこのかたはニ

いニまニに引十じふ劫こうを一へニたニまニり一

法ほ身うの引光くわう輪りんきニはニもニなニく一

世せの引盲まう冥みやうを引て一らニすニなニり一
ヨノ メシ キ ク ラ キ モ ノ

南ニ无一阿ニ彌一陀ニ佛引

南ニ无一阿ニ彌一陀ニ佛引

南ナ无ム阿ア彌ミ陀タ佛ブツ引

南ナ无ム阿ア彌ミ陀タ佛ブツ引

南ナ无ム阿ア彌ミ陀タ佛ブツ引

智チ慧ズの光クワウ明ミヤウはかりなシ

有ウ量リヤウの諸シヨ相サウことコトとトくク

光クワウ曉ケフかカふフらラぬヌものモノはハなナし

真シン實ジツ明メイにニ歸キ命メイせセよヨ

南ナ无ム阿ア彌ミ陀タ佛ブツ引

南云无一阿二彌一陀云佛引

南一无一阿二彌一陀一佛引

南云无一

阿一重彌一陀一引佛ツ

南一无一阿二彌一陀一佛一

南一无一阿二彌一陀一佛三

南一无一阿二彌一陀云佛三

南一无一阿二彌一陀一佛三

南ニ无一阿引

解脱けたちの光輪くわうりんきはもなしニ

光くわうそく觸くかふるものはみなニ

有う无むをはなるとのへたまふニ

平びやう等とう覺かくにニ歸くわい命みやうせよ一

南ニ无一阿ニ彌一陀一佛フ

南ニ无一阿ニ彌一陀一佛フ

南ニ无一阿ニ彌一陀一佛フ

南^レ无^一阿^二彌^一陀^一佛^三

南^レ无^一阿^引

光^{くわう}雲^{うん}无^む碍^け如^{によ}虚^こ空^{くこ}

ヒカリクモノゴトクシテサハリナキコトコクノゴトシ

あちさい一切^{いっせつ}の有^う碍^けに^レさ^レは^レり^レな^レし
ヨロヅノサハリアルコト

光^{くわう}澤^{たく}か^レふ^レら^レぬ^レも^レの^レぞ^レな^レき

難^{なん}思^し議^ぎを^レ歸^{くわ}命^{みやう}せ^レよ

南^レ无^一阿^二彌^一陀^一佛^ハ

南^レ无^一阿^二彌^一陀^一佛^三

南^二无^一阿^三彌^二陀^一佛^引

南^{二重}无^一阿^三彌^二陀^一佛^引

南^二无^一阿^三彌^二陀^一佛^引

南^二无^一阿^三彌^二陀^一佛^引

南^二无^一阿^三彌^二陀^一佛^引

南^二无^一阿^三彌^二陀^一佛^引

南^二无^一阿^三彌^二陀^一佛^引

清^{しやうじやうくわうみやう}淨^し光^み明^{やう}ならひなほし

遇く斯し光くわうのゆへなれは
ミタ佛ニマウアヒヌルユヘ

一切いちけつの業ごふ繫けものそこりぬ
ツミノタメニシバラルナリ

畢ひち竟きやう依るを歸くわ命みやうせよ

南な无む阿あ彌み陀た佛ぶつ

南な无む阿あ彌み陀た佛ぶつ

南な无む阿あ彌み陀た佛ぶつ

南な无む阿あ彌み陀た佛ぶつ

南な无む阿あ彌み陀た佛ぶつ

佛ふち 光くわう 照せう 曜えう 最さい 第たい 一いち

光くわう 炎えん 王わう 佛ふち と な つ け た り

三さん 塗つ の 黒こく 闇あむ ひ ら く な り

大たい 應おう 供く を 歸くわい 命みやう せ よ

願 以 此 功 德

平 等 施 一 切

同 發 菩 提 心

往 生 安 樂 國

○世尊我一心

歸命盡十方

無碍光如來

願生安樂國

○彌陀の名號となへつゝ

信心まことにとらるひとは

憶念の心つねにして

佛恩報ずるおもひあり

誓願不思議をうたがひて

御名を稱する往生は

宮殿のうちに五百歳

むなしくすべしやむさきたまふ

○道光明朗超絶せり

清淨光佛とまふすなり

ひとたび光照かふるもの

業垢をのぞき解脱をう

慈光じくわうはるかにかふらしめ

ひかりのいたるところには

法喜ほふきをうとぞのべたまふ
ミノリヲヨロコブナリ

大安慰だいたんを歸命くゐみやうせよ

無明むみやうの闇あんを破はするゆへ

ヤミニテクラシヤブルナリ

智慧ちゑ光くわう佛ぶつとなつけたり

一切いっさい諸佛しよぶつ三乘さんじやう衆しゆ

ともにも嘆たん譽よしたまへり

ホメホムルナリ

光明くわうみやうてらしてたへざれば

不ふ断だん光くわう佛ぶつとなつけたり

聞もん光くわう力りきのゆへなれば
ミダノチカヒヲシンジマヒラスルナリ

心しん不ふ断だんにて往生わうじやうす
ミダノセイガンチンセルコノロダヘズシテアラウシヤウストナリ

佛ぶつ光くわう測量しきりやうなきゆへに

難なん思し光くわう佛ぶつとなつけたり

諸しよ佛ぶつは往生わうじやう嘆たんじつ

彌み陀だの功く徳とくを稱しょうせしむ

しんくわう りさう
神光の離相をとかされば
ムゲクワウブチノオンカタチヲイヒヒラクコトナシトナリ

へ引へこ ぶち ー ー ー
無稱光佛となつけたり

いん くわうじやう ぶち
因光成佛のひかりをば
ヒカリキハナカラントチカヒ玉ヒテムゲクワウブチトナリテオハシマストシルベシ

しよぶち たん
諸佛の嘆ずるところなり
ホメタマフナリ

くわうみやうつきひ しやうくわ
光明 月日に勝過して
スグレタルナリ

てう ー 引 引 ー ー ー
超 日月光となづけたり

しや 引 たん
釋迦 嘆じてなをつきず
ホメタマフナリ

むい 引 ー 引 ー ー ー
無 等 等 を 歸 命 せよ
くわ みやう

彌陀初會の聖衆は
ミダノフチニナリタマヒシトキアツマリタマヒシヤウシユノオホキコトナリ

算數のをよぶことぞなき

淨土をぬがはんひとほみな

廣大會を歸命せよ

安樂無量の大菩薩

一生補處にいたるなり

普賢の徳に歸してこそ

穢國にかならず化するなれ

じふばうしゆじやう
十方衆生のためにとて

如に來らの引法ほ藏ふあごつうめ一て一そ

本ほん願ぐわん弘ぐ誓せいにこ歸くわせ一し一む一る

大だい心しん海かいを一歸くわ命みやうせ一よ

くわんおむせいし
觀音勢至もろよもに

慈じ光くわう世せ界かいを一照せう曜えうし引

有う縁ゑんをの度どして一し一ば一ら一く一も

休く息そくあ一る一こ一と一な一か一り一け一り
ヤスムコトナシトナリ

あんらくじやうと
安樂淨土にいたるひや

ごぢよくあくせ
五濁惡世にかへりては

しやくかむにふち
釋迦牟尼佛のごとくにて

りやくしゆじやう
利益衆生はきはもなし

しんりきじ
○神力自在なることは

しきりやう
測量すべきことぞなき
ハカリハカルコトナシトナリ

ふしぎ
不思議の徳をあつめたり

むじやうそん
無上尊を
引
歸命せよ
くわみやう

安あん樂らく聲しやう聞もん菩ぼ薩さち衆しゆ

人にん天てん智ち慧ゑほがらかに

身しん相さう莊しやう嚴ごんみなをなと

他た方ほうに順じゆんして名なをつらぬ

シタガヒテニンアリテナンアリトイフ

顔けん容よう端たん政しやうたぐひなし

精しやう微み妙めう軀く非ひ人にん天てん

タヘナルミナリニンニテフステンニアラズ

虚こ無む之し身しん無む極こく體たい

ホフシンニヨライナリ

平びやう等とう力りきを歸くわい命みやうせよ

安あん樂らく國こくをねがふひと

正しやう定ぢやう聚ぢやうにこそ住ぢゆすなれ

邪じや定ぢやう不ふ定ぢやう聚ぢやうくになし

諸しよ佛ぶつ讚さん嘆たんしたまへり

十じふ方ほう諸しよ有うの衆しゆ生じやうは

阿わ彌み陀だ至し德とくの御み名なをき

眞しん實じち信しん心じんいたりなば

おほきに所しよ聞もんを慶きやう喜ぎせん
シンズルコトラエテヨロコブナリ

にやくふしやうじや
若不生者のちかひゆへ
モシムマレズバトチカヒタマヘルナリ

信しん樂けうまこととにとさきいたり

一いち念ねん慶けい喜きするひととは

シンヲエテノチヨロコブトナリ

往わう生じやうかならずさだまらぬ

○安あん樂らく佛ぶつ土どの依よ正しやうは

法ほふ藏ざう願げん力りきのなせるなり

天てん上じやう天てん下げにたぐひなし

大だい心しん力りきを引ひ歸くわい命みやうせよ

安あん樂らく國こく土どの莊嚴しやうごむは

釋しや迦か無む碍げのこみこととにて

ややももつつままののぶぶたたままふ

無む稱しやう佛ぶつをを歸くわ命みやうせせよ

已い今こむ當たうのの往わう生じやうは
クワゴニムマルコムジャウニムマルミライニムマルノナリ

ここのの土とのの衆生しゆじやうののみみななららず

十じふ方ぱう佛ぶつ土とよよりりききたたる

無む量りやう無む數しゆ不ふ可か計けななり

カゾフベカラズトナリ

阿彌陀佛の御名をきよ

歡喜讚仰せしむれば

功德の寶を具足して

一念大利無上なり

たとひ大千世界に

みてらん火をもすぎゆきて

佛の御名をきくひと

ながく不退にかなふなり

神力無極の阿彌陀は

無量の諸佛ほめたまふ

東方恆沙の佛國より

無数の菩薩ゆきたまふ

○五十六億七千萬

彌勒菩薩はとしをへん

まことの信心うるひやは

このたびさやうをひらへんし

念ねむ佛ぶち往生わうじやうの願ぐわんにより

等とう正しやう覺かくにいたるひと

すなはち彌勒みろくにおなじくして

大だい般はん涅槃ねはんをさとるべし

真しん實じち信しん心じんうるゆへに

すなはち定聚ぢやうしゆにいりぬれば

補處ふしよの彌勒みろくにおなじくして

無む上じやう覺かくをさとるなり

像ざう法ほうのどきの智ち人にんも

自じ力りきの諸しよ教けうをさしをきて

時じ機き相さう應おうの法ほうなれば

念ねん佛ぶつ門もんにぞいりたまふ

彌み陀だの尊そん號がうとなへつ

信しん樂げうまこととにうるひとは

憶おく念ねんの心しんつねにして

佛ぶつ恩おん報ほうずるおもひあり

五ご濁ぢよく惡あく世せの有う情じやうの

選せん擇ちやく本ほん願ぐわん信しんずれば

不ふ可か稱しょう不ふ可か説せち不ふ可か思し議ぎの

功く徳とくは行者ぎやうじやの身みにみてり

もろくの雑行ざうぎやう雑修ざうしゆ自力じりきのこゝろ

をふりすて、一心いちしんに阿彌陀わあみだ如來だ我われ

等らが今度こんどの一大事いちだいじの御生ごしやう御たすけ

さふらへとたのみまうしてさふら

ふたのむ一念いちねんのとき往生わうじやう一定いちやう御

たすけ治定ちぢやうとぞんじこのうへの稱しやう

名みやうは御恩報謝ごおんほうしゃとぞんじよろこびま

うし候さふらふ。この御おんこととはり聴聞ちやうもんまら
 しわけさふらう事御開山聖人御出ことごかいさむしやうにんごしゆつ
 世せの御恩次第相承の善知識のあさごおんしだいさうじやうせんちしき
 からざる御勸化ごくわんくえの御恩とありがたごおん
 くぞんじ候さふらふ。このうへはさだめお
 かせらるゝ御おんおきて一期いちごをかぎり
 まもりまらうすべく候さふらふ。

太子七高僧并御代々御忌日

聖徳皇太子 推古天皇二十九年二月廿二日

龍樹菩薩 十月十八日 天親菩薩 三月三日

曇鸞和尚 五月廿六日 道綽禪師 四月廿七日

善導大師 三月廿七日 源信和尚 六月十日

源空上人 建曆二年正月二十五日

親鸞聖人 弘長二壬戌年十一月廿八日御入滅滿九十歳

二如信上人 正安二年正月四日 化六十四歳	三覺如上人 觀應二年正月十九日 化八十二歳
四善如上人 康暦元年二月廿九日 化五十七歳	五綽如上人 明德四年四月廿四日 化四十四歳
六巧如上人 永享十二年十月廿四日 化六十五歳	七存如上人 長祿元年六月十八日 化六十二歳

八蓮如上人	明應八年三月廿五日
十證如上人	天文廿三年八月廿三日
准如上人	化三十九歲
良如上人	寬永七年十一月卅日
寂如上人	化五十四歲
住如上人	享保十年七月八日
湛如上人	化七十五歲
法如上人	元文四年八月六日
文如上人	化六十七歲
本如上人	寬保元年六月八日
廣如上人	化二十七歲
明如上人	寬政元年十月廿四日
	化八十三歲
	寬政十年六月十四日
	化五十六歲
	文政九年十二月二日
	化四十九歲
	明治四年八月十九日
	化七十七歲
	明治卅六年一月十八日
	化五十四歲

九實如上人	大永五年二月二日
十一顯如上人	化六十八歲
東教如上人	文祿元年十二月廿四日
宣如上人	化五十一歲
琢如上人	慶長十九年十月五日
常如上人	化五十七歲
一如如上人	萬治元年七月廿五日
真如上人	化五十五歲
從如上人	元文十一年四月廿日
乘如上人	化四十二歲
達如上人	元祿七年五月廿二日
嚴如上人	化五十四歲
	天祿十三年四月三日
	化五十三歲
	延享元年十月二日
	化六十三歲
	寶曆十年七月十一日
	化四十二歲
	寬政四年二月廿二日
	化四十九歲
	慶應元年十一月四日
	化八十六歲
	明治廿七年一月五日
	化七十八歲

帖外九首和讃

○^し四^{じふ}十^{はち}八^{ぐわん}願^{じやう}成^{じゆ}就^{じゆ}して

正^{しやう}覺^{かく}の彌^み陀^だと^なり^りた^まま^ふふ

た^のみ^をか^けし^ひと^はみ^な

往^{わう}生^{じやう}か^なら^ずさ^だま^りぬ

の帖外

極ごく樂らく無む爲ゐの報ほう土どには

雜行ざうぎやうむまるゝことかたし

如來にょらい要よう法ほふをえらんでは

專修せんしゆの行ぎやうをおしへしむ

兆てう載さい永ゑい劫こくうの修しゆ行ぎやうは

阿彌陀あみだの三字さんじにおさまれり

五ご劫こくう思し惟ゆゐのみやう名がう號がうは

五濁ごちよくのあれらに付ふ屬ぞくせり

阿彌陀如來の三業は

念佛行者の三業と

彼此金剛の心なれば

定聚のくらゐにさだまりぬ

多聞淨戒えらばれず

破戒罪業さらはれず

たゞよく念ずるひとのみぞ

瓦礫も金と變じける

金こむ剛がう堅けん固この信心しんじむは

佛ほとけの相續さうぞくよりおこる

他た力りきの方ほう便べんかくしては

いかでか決定心くゑちぢやうしむをえん

大だい願ぐわん海かいのうちには

煩惱ぼんぷのなみこそなかりけれ

弘誓ぐせいのふねにのりぬれば

大悲だいひの風かせにまかせたり

超世てうせの悲願ひぐわんきよしより

あれらは生死しやうしの凡夫ぼんぷかは

有漏うろうの穢身たゐしんはかはらぬぞ

こゝろは淨土じやうとにあそぶなり

六八ろくはちの弘誓くせいのそのなかに

第三だいさん十五じふごの願ぐわんに

彌陀みだはことに女人にょにんを

引接いんせふせんとちかひしか

○末代まちだい无智むちの在家ざいけ止住しぢゆの男女なんによたらん

どもがらはこゝろをひとつにして

阿彌陀佛わあみだぶちをふかくたのみまいらせ

てさらに餘よのかたへこゝろをふら

ず一心いちしん一向いけうに佛ぶちたすけたまへとま

らさん衆生しゆじやうをばたとび罪業ざいごふは深重じんぢゆう

なりやともかならず彌陀如來みだによらいはすく
ひましますべしこれすなはち第十だいじふ
八はちの念佛往生ねむぶちわうじやうの誓願せいぐわんのこゝろなり
かくのごとく決定くゑいちやうしてのうへに
はねてもさめてもいのちのあらん
かぎりしやうみやうねむぶちは稱名念佛しょうみやうねむぶちすべきものな
りあなかしこく

○それ八萬はちまんの法藏ほふざうをしるといふとも
後生ごせをしらざる人ひとを愚者ぐしやとすたと
ひ一文不知いちもんふちの尼入道あまにふだうなりといふと
も後生ごせをしるを智者ちしやとすといふり

しかれば當流たうりゆうのこゝろはあながち
にもろくの聖教しやうけうをよみものをし
りたりといふとも一念いちねんの信心しんじんのい
はれをしらざる人ひとはいたづら事ことな
りとしるべしされば聖人しやうにんの御おんこと
ばにも一切いちせきの男女なんによたらん身みは彌陀みだ

の本願ほんぐわんを信しんぜずしてはふつとたす
かるといふ事ことあるべからずとおほ
せられたりこのゆへにいかなる女にょ
人にんなりといふとももろくの雜行ざうぎやう
をすて、一念いちねんに彌陀みだ如來にょらい今度こむどの後ご
生しやうたすけたまへとふかくたのみ申まう

さん人ひとは十人じふにんも百人ひやくにんもみなとにも
彌陀みだの報土ほうどに往生わうじやうすべき事ことさらさ
らうたがひあるべがらざるものな
りあなかしこく

○夫それざいけ在家あまにようばうの尼女房あまにようばうたらん身みはなにの

やうもなくあちしむあちかう一心いっしん一向いっかうに阿彌陀佛あみだぶつを
ふかくたのみまいらせてごしやう後生ごしやうたす
けたまへとまうさんひとひとはみなみ
な御おんたすけあるべしとおもひとり
てさららうたがひのこゝろゆめゆ
めあるべからずこれすなはち彌陀みだ

如來によらいの御おんちかひの他た力りき本願ほんぐわんとはま

らすなりこのうへにはなをごしやう後生の

たすからんことのうれしさありが

たさをおもはゞたゞ南な无も阿彌陀佛わあみだぶち

くゞととなふべきものなりあなか

しこく

○抑そもく男子なんしも女によ人にんも罪つみのふかゝらん

ともがらは諸佛しよぶちの悲願ひぐわんをたのみて

もいまの時分じぶんは末代まつだい惡世あくせなれば諸しよ

佛ぶちの御おんちかからにては中々なかかなはざ

る時ときなりこれによりて阿彌陀如來わあみだによらい

と申まう奉したてまつるは諸佛しよぶちすぐれて十惡五じふあくご

逆ぎやくの罪人ざいにんを我われたすけんといふ大願だいぐわん
をおこしましめて阿彌陀佛わあみだぶちとな
り給たまへりこの佛ぶちをふかくたのみて
一念御おんたすけ候さふらへと申まうさん衆生しゆじやうを
我われたすけずば正覺しやうがくならじとちかひ
まします彌陀みだなれば我等われらが極樂ごくらくに

往生わうじやうせんことは更さらにうたがひなし
このゆへに一心おちしむわちかう一向わあみだに阿彌陀如來だによらい
たすけ給たまへとふかく心こころにうたがひ
なく信しんじて我身わがみの罪つみのふかき事ことを
ばらちすて佛ほとけにまかせまいらせて
一念おちねむの信心しんじむさだまらん輩ともがらは十人じふにんは

十人じふにんながら百人ひやくにんは百人ひやくにんながらみな
淨土じやうとに往生わうじやうすべき事ことさらけにうたが
ひなしこのうへにはなをくたふ
とくおもひたてまつらんこゝろの
をこらん時ときは南无阿彌陀佛なもわあみだぶちくよ
時ときをもいはずところをもさらはず

念佛ねむぶちまうす申まうすべしこれをすなはち佛恩報ぶちおんほう
謝しやの念佛ねむぶちと申まうすなりあなかしこく

○信心しんじん獲得じやくやくすといふは第十八だいじふはちの願ぐわんを
こゝろなるなりこの願ぐわんをこゝろら
るといふは南无阿彌陀佛なもわあみだぶちのすがた

をこゝろうるなりこのゆへに南无なむ
くのみやうと歸命する一念いちねんの處ところに發願ほちぐわん廻向ゑかうの
こゝろあるべしこれすなはち彌陀みだ
によらい如來ぼむぶの凡夫ゑかうに廻向ゑかうしますことゝ
ろなりこれを大經だいぎやうにりやうしよしゆじやう令諸衆生
功德成就くどくじやうじゆととけりされば无始むし已來いらい

つくりとつくる惡業あくごふぼむなう煩惱ぼむなうをのこる
ところもなく願力ぐわんりきふ不思議しぎをもて消せう
滅めちするいはれあるがゆへに正定しやうちやう
聚不退じゆふたいのくらゐに住すちゆとなりこれ
によりて煩惱ぼむなうを斷だんぜずして涅槃ねはんを
らといへるはこのこゝろなり此義このぎ

は當流たうりう一途いちとの所談しよだんなるものなり他た
流りうの人ひとに對たいしてかくのごとく沙汰さた
あるべからざる所ところなり能々よくよくこゝろ
うべきものなりあなかしこく

一念いちねんに彌陀みだをたのみたてまつる

行者ぎやうじやには无上むじやう大利だいりの功德くどくをあた
へたまふこゝろを和讃わさんに聖人しやうにんの
いはく

五濁ごちよく惡世あくせの有情うじやうの選擇せんじやく本願ほんぐわん信しんず
れば不可ふか稱しやう不可ふか說せち不可ふか思議しぎの功德くどく
は行者ぎやうじやの身みにみてりこの和讃わさんの心こころ

は五濁悪世ごちよくあくせの衆生しゆじやうといふは一切我おちさいわれ
等女人らによにんあくにん悪人の事ことなりさればかゝる
あさましきあちしやうざうあく一生造悪ぼむぶの凡夫ぼむぶなれど
も彌陀如來みだによらいを一心おちしむおちかう一向おちしむおちかうにたのみま
いらせて後生ごしやうたすけ給たまへとまらうさ
んものをばかならずすくひましま

すべきこととさらうたがふに疑うたがふべからずかや
らに彌陀みだをたのみまらうすものには
不可稱ふかしようふ不可説かせちふ不可思議かしぎの大功德だいぐどくを
あたへましますなり不可稱ふかしようふ不可説かせち
不可思議ふかしぎの功德ぐどくといふこととはかず
かぎりもなき大功德だいぐどくのこととなりこ

の大功德だいくどくを一念いちねんに彌陀みだをたのみま
らす我等衆生われらしゆじやうに廻向ゑがふしましますゆ
へに過去未來現在くわこみらいげんざいの三世さんぜの業障ごふしようち一
時じにつみきえて正定聚しやうちやうじゆのくらゐ
また等正覺とうしやうがくのくらゐなんどにさだ
まるものなりこのころをまた和

讚さんにはく彌陀みだの本願信ほんぐわんしんずべし本
願信ぐわんしんずるひとほみな攝取不捨せふしゆふしやの利
益やくゆへ等正覺とうしやうがくにいたるなりといへ
り攝取不捨せふしゆふしやといふはこれも一念いちねんに
彌陀みだをたのみたてまつる衆生しゆじやうくわうを光
明みやうのなかにおさめとりて信しんずること

ろだにもかはらぬばすてたまは
ずとていふこゝろなりこのほかにい
ろくの法門ほふもんどもありとていふども
たゞ一念あちねむに彌陀みだをたのむ衆生しゆじやうはみ
なこそとてぐく報土ほうどに往生むうじやうすべきこ
とゆめくくうたがふこゝろあるべ

からざるものなりあなかしこく

○夫女人それによにんの身みは五障ごしやう三從さんじゆとておと
こにまさりてかゝるふかきつみの
あるなりこのゆへに一切あちさいの女人によにんを
ば十方じふぱうにまします諸佛しよぶつもあがちか

らにては女人にょにんをばほとけになした
まふことさらになし志かるに阿彌わあみ
陀だ如來にょらいこそ女人にょにんをばあれひとりた
すけんといふ大願だいぐわんをおこしてすく
ひたまふなりこのほとけをたのま
ずば女人にょにんの身みのほとけになるとい

ふことあるべからざるなりこれに
よりてなにとこゝろをももちまた
なにと阿彌陀わあみだほとけをたのみまい
らせてほとけになるべきぞなれば
なにのやうもいらすたゞふたごゝ
ろなく一向いちかうに阿彌陀佛わあみだぶつばかりをた

のみまいらせて後生ごしやうたすけたまへ
とおもふこゝろひやつにてやすく
ほとけになるべきなりこのこゝろ
のつゆちりほどもうたがひなけれ
ばかならず極樂ごくらくへまいりてら
しくこゝろほやけやはなるべきなり

さてこのうへにこゝろうぶきやう
はやきぐねむぶち念佛をまうしてかゝる
あたましきあれらをやすくたすけ
まします阿彌陀わあみた如來にょらいの御恩ごおんの御おんら
れしさありがたさを報ほうぜんために
念佛ねむぶちまうすべきばかりなりとこゝ

ろうべきものなりあなかしく

○それ五劫思惟の本願といふも兆載ごごふしゆいほんぐわんてうさい

永劫の修行といふもたゞ我等一切わやうこふしゆぎやうわれらゐちさい

衆生をあなたがちにたすけ給はんがしゆじやうたま

ための方便に阿彌陀如來御辛勞あほうべんわあみだによらいごしんらう

りて南无阿彌陀佛といふ本願をたなもわあみだぶちほんぐわん

てましくてまよひの衆生の一念しゆじやうゐちねむ

に阿彌陀佛をたのみまいらせてもわあみだぶち

ろくの雜行をすて、一向一心にざいぎやうゐちかうゐちしむ

彌陀をたのまん衆生をたすけずんみだしゆじやう

ばあれ正覺ならじとちかひ給ひてしやうがくたま

南无阿彌陀佛なむあみだぶちとなりましますこれ

すなはち我等われらがやすく極樂ごくらくに往生わうじやう

すべきいはれなりとこしるべしされ

ば南无阿彌陀佛なむあみだぶちの六字ろくじのこゝろは

一切衆生いちさいしゆじやうの報土ほうどに往生わうじやうすべきす

がたなりこのゆへに南无なむと歸命くゐみやうす

ればやがて阿彌陀佛あみだぶちの我等われらをたす

けたまへるこゝろなりこのゆへに

南无なむの二字にじは衆生しゆじやうの彌陀みだ如來によらいにむ

かひたてまつりて後生ごしやうたすけたま

へとまらすこゝろなるべしかやら

に彌陀みだをたのむ人ひとをもらさずすく

ひたまふこゝろこそ阿彌陀佛わあみだぶちの四
字じのこゝろにてありけりとおもふ
べきものなりこれによりていかな
る十惡じふあく五逆ごぎやく五障ごしよう三從さんじゆうの女人にょにんなり
とももろくの雜行ざぎやうをすて、ひた
すら後生ごしやうたすけたまへとまうさん

人ひとをばたとへば十人じふにんもあれ百人ひやくにんも
あれみなことごとくもらさずたす
けたまふべしこのおもむきをうた
がひなく信しんぜん輩ともがらは實眞しんじちの彌陀みだの
淨土じやうどに往生わうじやうすべきものなりあなか
しこく

○當流たうりうの安心あんしむの一義いちぎといふはたゞ南な
无阿彌陀佛もわあみだぶちの六字ろくじのこゝろなりた
どへば南无なもと歸命くわみやうすればやがて阿わあ
彌陀佛みだぶちのたすけたまへることゝろな
るがゆへに南无なもの二字にじは歸命くわみやうのこ
ゝろなり歸命くわみやうといふは衆生しゆじやうのも

ろくの雜行ざふぎやうをすてて阿彌陀佛わあみだぶち後
生しやうたすけたまへと一向いちかうにたのみた
てまつることゝろなるべしこのゆへ
に衆生しゆじやうをもらさず彌陀如來みだによらいのよく
しろしめしてたすけましますことゝ
ろなりこれによりて南无なもとたのむ

衆生しゆじやうを阿彌陀佛むあみだぶちのたすけまします
道理だうりなるがゆへに南无阿彌陀佛なもわあみだぶちの
六字ろくじのすがたはすなはちあれら一いち
切衆生さいしゆじやうの平等びやうどうにたすかりつるす
がたなりやとこらるゝなりされば他た
力りきの信心しんじむをうるやといふもこれしか

しながら南无阿彌陀佛なもわあみだぶちの六字ろくじのこ
ゝろなりこのゆへに一切いちせうの聖教しやうけうと
いふもたゞ南无阿彌陀佛なもわあみだぶちの六字ろくじを
信しんぜしめんがためなりやといふこゝ
ろなりとおもふべきものなりあな
かここく

○聖しやうにん人のちりう一流ごくわんの御勸化くゑのをもむきは

信心しんじんをもて本ほんとせられ候さふらふそのゆへ

はもろくくの雜行ざうぎやうをなげすて、一いち

心しんに彌陀みだに歸命くゐみやうすれば不可思議ふかしぎの

願力ぐわんりきとして佛ぶつのかたより往生わうじやうは治ち

定ぢやうせしめたまふそのくらゐを一念いちねん

發起ほち入正きにふしやうぢやう定之聚しじゆとも釋しやくしそのら

への稱名しやうみやうねむぶち念佛にょらいは如來にょらいあが往生わうじやうを

さだめたまひし御恩報盡ごおんほうじんの念佛ねむぶちと

こゝろらうべきなりあなかしこく

○抑そもこの御正忌ごしやうぎのらちに參詣さんけいをい

たしこゝろざしをはこび報恩謝徳ほうおんしゃとく
 をなさんやおもひて聖人の御まへしやうにん おん
 にまいらんひとのなかをいて信しん
 心を獲得せしめたるひとともあるべじむ きやくとく
 しまた不信心のともがらもあるべふしんじむ
 しもてのほかの大事なりそのゆへだいじ

は信心を決定せずば今度の報土しんじむ くるちちやう こむど ほうど
 の往生は不定なりされば不信のひわうじやう ふちやう ふしん
 ともすみやかに決定のこゝろをくゑちちやう
 とるべし人間は不定のさかひなりにんげん ふちやう
 極樂は常住の國なりされば不定のごくらく じやうちやう くに ふちやう
 人間にあらんよりも常住の極樂をにんげん じやうちやう ごくらく

ぬがふべきものなりされば當流たうりうに
は信心しんじむのかたをもてさきとせられ
たるそのゆへをよくしらずばいた
づらごととなりいそぎて安心あんじむくちちやう決定
して淨土じやうどの往生わうじやうをぬがふべきなり
それ人間にんげんに流布るふしてみな人ひとのこと

ろえたるとをりはなにの分別ふんべちもな
くくちにたゞ稱名しやうみやうばかりをと
へたらば極樂ごくらくに往生わうじやうすべきやうに
おもへりそれはおほきにおぼつか
なき次第しだいなり他力たうりきの信心しんじむをとると
いふも別べちのことにはあらず南无阿なもわあ

彌陀佛みだぶちの六むつの字じのこゝろをよくし

りたるをもて信心しんじむくゑちちやう決定すとはい

ふなりそもく信心しんじむの躰たいといふは

經きやうにいもんごみやうがうしんじむくわんはく聞其名號信心歡喜と

いへり善導せんたうのいはく南无なむといふは

歸命くゐみやうまたこれ發願ほちぐわん廻向ゑかうの義ぎなり

阿彌陀佛わあみだぶちといふはすなはちその行ぎやう

といへり南无なむといふ二字にじのこゝろ

はもろくの雜行ざいぎやうをすてゝうたが

ひなく一心いちしん一向いひやうに阿彌陀佛わあみだぶちをたの

みたてまつるこゝろなりさて阿彌わあみ

陀佛だぶちといふ四よつの字じのこゝろは一心いちしん

に彌陀みだを歸命くわみやうする衆生しゆじやうをやうも
 なくたすけたまへるいはれがすな
 はち阿彌陀佛わあみだぶちの四よつの字じのこゝろな
 りされば南无阿彌陀佛なもわあみだぶちの躰たいをか
 のごまへこゝろえあけたるを信心しんじむ
 をやるやはいふなりこれすなはち

他方たうきの信心しんじむをよくこゝろえたる念ねむ
 佛ぶちの行者ぎやうじやはまらうすなりあなかし
 こあなかしこ

○當流たうりうの安心あんじむのおもむきをくはしく
 しらんやおもはんひとはあながち

に智慧才覺ちゑさいかくもいらすたゞわが身みは
つみふかきあさましきものなりと
おもひとりてかゝる機はかりまでもたす
けたまへるほとけは阿彌陀わあみだ如來だによらいは
かりなりとしりてなにのやうもな
くひとすぢにこの阿彌陀わあみだほとけの

御袖おんそでにひとすぢがりまいらするお
もひをなして後生ごしやうたすけたまへと
たのみまらせばこの阿彌陀わあみだ如來だによらいは
ふかくよろこびましくしてその御おん
身みより八萬四千はちまんしせんのおほきなる光明くわうみやう
をはなちてその光明くわうみやうのなかにそ

の人ひとをおさめいれてをきたまふべ
しさればこのこゝろをきやう經には光くわう
みやうへんせうじふほうせかいねむぶちしゆじやうせふしゆふしや
明遍照十方世界念佛衆生攝取不捨
とはどかれたりやこゝろらうべしさ
てはあが身みのほどけにならんずる
ことばはなにのあづらひもなきあら

殊勝しゆしやうの超世てうせの本願ほんぐわんやありがたの
みだによらい彌陀如來の光明くわうみやうやこの光明くわうみやうの
縁ゑんにあひたてまつらばも无始むしより
このかたの无明業障むみやうごふしやうのおそろし
きやまひのなほるやいふことばはさ
らにもてあるべからざるものなり

しかるにこの光明くわうみやうの縁ゑんにもよほ
 されて宿善しよせんの機きありて他力信心たうきしんじむと
 いふことをばいますでにえたりこ
 れしかしながら彌陀如來みだによらいの御かた
 よりさづけましくたる信心しんじむとは
 やがてあらはにしられたりかるが

ゆへに行者ぎやうじやのをこすところの信心しんじむ
 にあらず彌陀如來みだによらい他力たうきの大信心だいしんじむと
 いふことはいまこそあきらかにし
 られたりこれによりてかたじけな
 くもひとたび他力たうきの信心しんじむをえたら
 ん人ひとはみな彌陀如來みだによらいの御恩ごおんをおも

ひはかりて佛ぶつ恩報謝おんほうしやのためにつね
に稱名念佛しょうみやうねむぶつをまらうしたてまつる
べきものなりあなかしこく

○それ南无阿彌陀佛なむあみだぶつとまらうす文字もんじは
そのかずあづかに六字ろくじなればさの

み功能くのうのあるべきともおぼえざる
にこの六字ろくじの名號みやうがうのうちには无上むじやう
甚深じんじんの功德利益くどくりやくの廣大くわうだいなることさ
らにそのきはまりなきものなりさ
れば信心しんじむをよるといふもこの六字ろくじ
のうちにもれりやしるべし

に別べちに信心しんじむとて六字ろくじのほかにはあ
るべからざるものなり

抑そもくこの南无阿彌陀佛なもわあみだぶちの六字ろくじを善せん
導釋だうしやくしていはく南无なもといふは歸命くわみやう
なりまたこれ發願廻向ほちぐわんゑかうの義ぎなり阿わあ
彌陀佛みだぶちといふはその行ぎやうなりこの義ぎ

をもてのゆへにかならず往生わうじやうする
ことをうといひしければこの釋しやく
のこゝろをなにとこゝろうべきぞと
といふにたとへば我等われらごときあくの惡
業煩惱ごふぼむなうの身みなりといふあちねむも一念に
阿彌陀佛わあみだぶちに歸命くわみやうせばかならずその

機きをしろしめしてたすけたまふべ
 しくのみやうそれ歸命といふはすなはちたす
 けたまへとまらすこゝろなりされ
 ばあちねむ一念に彌陀をたのむ衆生しゆじやうに无上むじやう
 大利だいりの功德くどくをあたへたまふを發願ほちぐわん
 廻向ゑかうとはまらすなりこの發願ほちぐわん廻向ゑかう

の大善だいぜん大功德だいくどくをあれら衆生しゆじやうにあた
 へましますゆへに无始むしくわう曠劫こくけつよりこ
 のかたつくりをきたる悪業あくごふ煩惱ぼむなうを
 ばあちじ一時いつじに消滅せうめつしたまふゆへにあれ
 らが煩惱ぼむなう悪業あくごふはことごとくくみなき
 えてすでに正定聚しやうぢやうじゆふたいてん不退轉ふたいてんなると

いふくらゐに住すぢゆうとはいふなりこ
 のゆへに南无阿彌陀佛なもわあみだぶちの六字ろくじのす
 がたはあれらが極樂ごくらくに往生わうじやうすべき
 すがたをあらはせるなりといよ
 よしられたるものなりされば安心あんしむ
 といふも信心しんじんといふもこの名號みやうがうの

六字ろくじのこゝろをよくくこゝろら
 るものを他力たうりきの大信心だいしんじんをえたるひ
 とゝはなづけたりかゝる殊勝しゆしやうの道だう
 理りあるがゆへにふかく信しんじたてま
 つるべきものなりあなかしこく

○夫人間の浮生なる相をつらく観それになんげん ふしやう さう くわん
 ずるにおほよそはかなきものはこ
 の世の始中終まぼろしのごとくなよ しちうしめ
 る一期なりさればいまだ萬歳の人もちご まんざい じん
 身をうけたりといふ事をきかず一しん こと もち
 生すぎやすしいまにいたりてたれしやう

か百年の形骸をたもつべきや我ひやくねん ぎやうたい われ
 やさき人ややさきけふともしらずあひと
 すやもしらずをくれさきだつ人はひと
 もやのこづくすゑの露よりもしげつゆ
 しやいくりされば朝には紅顔ありあした こうがん
 て夕には白骨になれる身なりすゆふ ばくこち み

に无常むじやうの風かせきたりぬればすなはち
 ふたつのまなこたちまちにどぢひ
 とつのいきながくたえぬれば紅顔こうがん
 むなしく變へんじて桃李たうりのよそほひを
 うしなひぬるときは六親眷屬ろくしんけんぞくあつ
 まりてなげきかなしめども更さらにそ

の甲斐かひあるべからずさてしもある
 べき事ことならぬばとて野外やぐわいにおくり
 て夜半よはんのけふりとなしはてぬれば
 たゞ白骨はくこちのみぞのこれりあはれと
 いふも中なかくおろかなりされば人にん
 間げんのはかなき事ことは老少不定らうせうふぢやうのさか

ひなればたれの人もはやく後生のごしやう
のちだいじこころの大事を心にかけて阿彌陀佛わあみだぶちをふ
かくたのみまいらせて念佛ねむぶちまうす
べきものなりあなかしく

隅類文

西万不可思議尊さいはうふかしぎそん

法藏菩薩因位中ほふざうぼさちいんちゆう

超發殊勝本弘誓てうほちしゆしやうほんぐせい

建立无上大悲願こむりふむじやうだいひぐわん

思惟攝取經五劫しゆいせふしゆきやうごこふ

菩提妙果酬上願ぼだいめうくわしゆじやうぐわん

滿足本誓歷十劫まんぞくほんせいりやくじふこふ

壽命延長莫能量じゆみやうえんぢやうまくのうりやう

慈悲深遠如虛空じひじんおんによここく

智慧圓滿如巨海ちゑんまんによこかい

清淨微妙无邊刹

廣大莊嚴等具足

種種功德悉成滿

超逾十方諸佛國

普放難思无碍光

能破无明大夜闇

智光明朗開慧眼

名聲靡不聞十方

如來功德唯佛知

集佛法藏施凡愚

彌陀佛日普照耀

已能雖破无明闇

貪愛瞋嫌之雲霧

常覆清淨信心天

譬猶如日月星宿

雖覆煙霞雲霧等

其雲霧下明无闇

信知超日月光益

必至无上淨信曉

三有生死之雲晴

△

二

清淨无碍光耀朗

一如法海眞身顯

發信稱名光攝護

亦獲現生无量德

无边難思光不斷

更无隔時處諸緣

諸佛護念眞莫疑

十方同稱讚悅可

惑染逆惡齊皆生

謗法闡提廻皆往

當來之世經道滅

特留此經住百歲

如何疑惑斯大願

唯信釋迦如實言

印度西天之論家

中夏日域之高僧

開大聖世雄正意

如來本誓明應機

釋迦如來楞伽山

爲衆告命南天竺

△

三

龍樹菩薩興出世

悉能摧破有无見

宣說大乘无上法

證歡喜地生安樂

造十住毘婆娑論

難行峻路特悲憐

易住大道廣開示

應以恭敬心執持

稱名號疾得不退

信心清淨即見佛

天親菩薩作論說

依修多羅顯眞實

光闡橫超本弘誓

演暢不可思議願

由本願力廻向故

爲度具縛彰一心

歸入功德大寶海

必獲入大會衆數

得至蓮華藏世界

即證寂滅平等身

遊煩惱林現神通

入生死菌示應化

曇鸞大師梁蕭王

常向鸞方菩薩禮

三藏流支授淨教

焚燒仙經歸樂邦

天親菩薩論註解

如來本願顯稱名

往還廻向由本誓

煩惱成就凡夫人

信心開發卽獲忍

證知生死卽涅槃

必到无量光明土

諸有衆生皆普化

道綽決聖道難證

唯明淨土可通入

萬善自力貶勤修

圓滿德號勸專稱

三不三信誨慇懃

像末法滅同悲引

一生造惡遇弘誓

至安養界證妙果

善導獨明佛正意

深籍本願興眞宗

矜哀定散與逆惡

光明名號示因緣

入涅槃門值眞心

必獲於信喜悟忍

得難思議往生人

卽證法性之常樂

源信廣開一代教

偏歸安養勸一切

依諸經論撰教行

誠是爲濁世目足

決判得失於專雜

廻入念佛眞實門

唯定淺深於執心

報化二土正辨立

源空曉了諸聖典

憐愍善惡凡夫人

眞宗教證興片州

選擇本願施濁世

還來生死流轉家

決以疑情爲所止

速入寂靜无爲樂

必以信心爲能入

論說師釋共同心

拯濟无邊極濁惡

道俗時衆皆悉共

唯可信斯高僧說

○十四行偈

道俗時衆等

各發无上心

生死甚難厭

佛法復難欣

共發金剛志

橫超斷四流

願入彌陀界

歸依合掌禮

眞宗教證興片州

選擇本願施濁世

還來生死流轉家

決以疑情爲所止

速入寂靜无爲樂

必以信心爲能入

論說師釋共同心

拯濟无邊極濁惡

道俗時衆皆悉共

唯可信斯高僧說

○十四行偈

道俗時衆等

各發无上心

生死甚難厭

佛法復難欣

共發金剛志

橫超斷四流

願入彌陀界

歸依合掌禮

世尊我一心

せそんかあちしむ

歸命盡十方

くのみやうじんじつぱう

法性眞如海

ほふしやうしんによかい

報化等諸佛

ほうくゑとうしよぶち

一一菩薩身

あちあちばさちしん

眷屬等无量

けんぞくとうむりやう

莊嚴及變化

しやうごむぎふへんぐゑ

十地三賢海

じふちさんげんかい

時劫滿未滿

じこふまんみまん

智行圓未圓

ちぎやうゑんみゑん

正使盡未盡

しやうしじんみじん

習氣亡未亡

しゆけまうみまう

功用无功用

くゆうむくゆう

證智未證智

しやうちみしやうち

妙覺及等覺

めうがくぎふとうがく

正受金剛心

しやうじゆこむがむしん

相應一念後

さうおうあちねむご

果德涅槃者

くわとくねちはんしや

我等咸歸命

がとうげんくのみやう

三佛菩提尊

さむぶちぼだいそん

无礙神通力

冥加願攝受

我等咸歸命

三乘等賢聖

學佛大悲心

長時无退者

請願遙加備

念念見諸佛

我等愚痴身

曠劫來流轉

今逢釋迦佛

末法之遺跡

彌陀本誓願

極樂之要門

定散等回向

速證无生身

我依菩薩藏

頓教一乘海

說偈歸三寶

與佛心相應

じふばうごうじやぶち
十方恒沙佛

こむじようにそんげう
今乘二尊教

くわんいしくどく
願以此功德

どうほちぼだいしむ
同發菩提心

ろくつうせうちが
六通照知我

くわうかいじやうどもん
廣開淨土門

びやうどうせいちさい
平等施一切

わうじやうあんらくこく
往生安樂國

○ たんぶちげ
嘆佛偈

くわんげんぎぎ
光顏巍巍

によぜえんみやう
如是燄明

にちぐわちまに
日月摩尼

かいしちおんぺい
皆悉隱蔽

ゐしんむごく
威神无極

むよとうしや
无與等者

しゆくわうゑんえう
珠光燄耀

るにやくじゆもく
猶若聚墨

終

如來容顏によらいようげん

正覺大音しやうがくだいおむ

戒聞精進かいもんしやうじん

威德无侶ゐとくむりよ

深諦善念じんたいぜんねむ

超世无倫てうせむりん

響流十方かうるじふほう

三昧智慧さむまいちゑ

殊勝希有しゆしやうけう

諸佛法海しよぶちほふかい

窮深盡奧くじんじんおう

无明欲怒むみやうよくぬ

人雄師子にんおうし

功勳廣大くくんくわうだい

光明威相くわうみやうゐさう

究其涯底くこがいたい

世尊永無せそんゐやうむ

神德无量じんとくむりやう

智慧深妙ちゑじんめう

震動大千しんどうだいせん

願ぐわん我が作さ佛ぶち

過くわ度ど生しやう死じ

布ふ施せ調てう意ゐ

如によ是ぜ三さん昧まい

吾ご誓せい得とく佛ぶち

齋さい聖しやう法ほふ王わう

靡み不ふ解ぐえ脫だち

戒かい忍にん精しやう進じん

智ち慧ゑ為ゐ上じやう

普ふ行ぎやう此し願ぐわん

一いち切さい恐く懼く

假け使し有う佛ぶち

无むり量やう大だい聖しやう

供く養やう一いち切さい

不ふ如によ求ぐ道だう

為ゐ作さ大だい安あん

百ひやく千せん億おく萬まん

數しゆ如によ恒ごう沙じや

斯し等とう諸しよ佛ぶち

堅けん正しやう不ふ卻ぎやく

△

十二

譬ひ如によ恒ごう沙じや

復ふ不ふ可か計け

光くわう明みやう悉しち照せう

如によ是ぜ精しやう進じん

令りやう我が作さ佛ぶち

諸しよ佛ぶち世せ界かい

无む數しゆ刹せち土と

徧へん此し諸しよ國こく

威ゐ神しん難なん量りやう

國こく土と第だい一いち

其こ衆しゆ奇き妙めう

國こく如によ泥ない洹おん

我が當たう哀あい愍みむ

十じふ方ばう來らい生しやう

已い到たう我が國こく

道だう場ちやう超てう絕ぜち

而に无む等とう雙さう

度と脫だち一いち切さい

心しむ悅ゑち清しやう淨じやう

快くゑ樂らく安あん穩おん

幸かう佛ぶつ信しん明みやう

是ぜ我が真しん證しよう

發ほち願ぐわん於お彼ひ

力りき精しやう所しよ欲よく

十じふ方ばう世せ尊そん

智ち慧ゑ无む礙げ

常じやう令りやう此し尊そん

知ち我が心しん行ぎやう

假け令りやう身しん止し

諸しよ苦く毒どく中ちゆう

我が行ぎやう精しやう進じん

忍にん終じゆ不ふ悔くゑ

○三誓偈さむせいげ

我建超世願がごむてうせぐわん

必至无上道ひちしむじやうだう

斯願不満足しくわんふまんぞく

誓不成正覺せいふじやうしやうかく

我於无量劫が おむりやうこふ

不為大施主ふ めだいせしゆ

普濟諸貧苦ふさいしよひんく

誓不成正覺せいふじやうしやうかく

我至成佛道がしじやうぶちだう

名聲超十方みやうしやうてうじふばう

究竟靡所聞くきやうみしよもん

誓不成正覺せいふじやうしやうかく

離欲深正念りよくじんしやうねむ

淨惠修梵行じやうゑしゆぼむぎやう

志求无上道しぐむじやうだう

為諸天人師ゐしよてんにんし

神力演大光じんりきゑんだいくわう

普照无際土ふせうむさいど

せうぢよさむくみやう
消除三垢冥

くわうさいしゆやくなん
廣濟衆厄難

かいひちゑげん
開彼智慧眼

めちしこむまうあむ
滅此昏盲闇

へいそくしよあくだう
閉塞諸惡道

つうだちぜんしゆもん
通達善趣門

こうそじやうまんぞく
功祚成満足

ゐゑうらうじふばう
威曜朗十方

にちぐわちしゆぢうき
日月戢重暉

てんくわうおんふげん
天光隱不現

ゐしゆかいほふざう
爲衆開法藏

くわうせくどくほう
廣施功德寶

じやうおだいしゆぢう
常於大衆中

せちほうししき
說法師子吼

くやうゐちさいぶち
供養一切佛

ぐそくしゆとくほん
具足衆德本

ぐわんゑしちじやうまん
願惠悉成佛

とくゐさむがいおう
得爲三界雄

によぶちむげち
如佛无礙智

つうだちみふせう
通達靡不照

願我功惠力

等此最勝尊

斯願若尅果

大千應感動

虛空諸天人

當雨珍妙華

佛說阿彌陀經

如是我聞。一時佛在舍衛國。

祇樹給孤獨園。與大比丘衆。

千二百五十人俱。皆是大阿

羅漢。衆所知識。長老舍利弗。

摩訶目犍連。摩訶迦葉。摩訶

迦旃延。摩訶俱絺羅。離婆多。

周利槃陀伽。難陀。阿難陀。羅

睺羅。憍梵波提。賓頭盧頗羅

墮。迦留陀夷。摩訶劫賓那薄

拘羅。阿菟樓駄。如是等諸大

弟子。并諸菩薩。摩訶薩。文珠

師利法王子。阿逸多菩薩。乾

陀訶提菩薩。常精進菩薩。

與如是等諸大菩薩。及釋提